

枯れた技術に基づく 視線共有ビデオチャット グループウェアの研究開発

川路崇博・小泉真也

●要約

これまでも、ビデオ会議システムが開発されており、ビデオによる会議環境の実現に留まらず臨場感をも伝えようとする試みが行われている。しかし大規模かつ汎用性の低いシステムによりそれらは実現されている。そこで本稿では方向性を変え、「枯れた技術」を用いてより実用性の高いビデオチャットグループウェアの構築を狙った。

その実現においては、普及期を迎えたネットブック型 PC に着目し、ほぼ標準的に装備されている Web カメラを用いた双方向性メディアグループウェアの研究開発を行うことを検討する。Web カメラを用いたビデオチャット会議では、いわゆる「カメラ視線」ではなく、画面内に映し出されたチャット相手の顔を見て会話をを行う。そこで問題になるのは、視線の共有が行われなかったために、双方向性メディアとしてのネットブック型 PC の機能を生かし切れていない部分である。また遠隔であることを感じさせない臨場感が得られにくいという点も課題となる。そこで本稿では、ネットブック型 PC を用いたビデオチャットシステムにおける疑似的視線共有の手法を提案する。視線共有は PC に付属する Web カメラで撮影された顔画像に対して、視線の動きベクトルを元に映像修正を行うことにより疑似的に実現する。

●キーワード

枯れた技術の水平思考

視線共有

ビデオチャット

ネットブック型 PC

双方向性メディア